

令和5年度 第2回新津第一・第二圏域支え合いのしくみづくり会議 まとめ

【日 時】 令和6年2月8日（木） 13:30～15:30

【会 場】 新津地域交流センター 2階（203・204研修室）

【出席者】 新津中央コミ協：鈴木健康福祉部員、新津中央地区民協：吉川会長、田家2丁目町内会：小野沢会長、新津西部コミ協：内田副会長、新津西部地区民協：佐藤会長、荻川コミ協：加納副会長、
荻川地区民協：中野会長、秋葉区健康福祉課高齢介護担当：堀内主事、今井係長(行政担当者)、包括新津：阿部管理者、秋葉区社協：横山事務局長補佐(事務局・構成員兼務)、小林SC(1層)、加藤SC

(1) 今年度のふり返し

取り組み1：緊急情報キットの活用方法について

	周知（趣旨・目的）	緊急連絡先の考え方	配布状況の把握・更新について
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 緊急情報キット自体をまだ知らない人もいる。 緊急情報キットの趣旨が理解されているか。 使い方がわからない人もいる。 冷蔵庫に設置していない世帯もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急連絡先が記入されていない人もいる。 遠方の家族の連絡先だけで本人の安心になるのか。 家族がいない人は、緊急連絡先を地域の人に行っている例もあるが、在り方を考えていく必要がある。 緊急連絡先に対する考え方に温度差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 配布した世帯を把握していない地区(町内)もある。 配布したままで情報が更新されていない地区(町内)もある。 コミ協と自治会、町内会との連携が必要。
アイデア	<ul style="list-style-type: none"> 緊急情報キット配布事業の周知方法の工夫を検討。（趣旨、目的、使い方の説明） キットの設置場所や目印(きらりん丸シール)の貼り付け箇所を統一する為の周知と確認方法の検討。 活用されたケースの紹介ができると良い。 自治会、町内会を対象とした説明会について検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急連絡先の考え方についての検討。 災害内容によっては、連絡先を地域の人にすることを検討。 情報用紙に記入されているかの確認ができると良い。（確認方法の検討） 	<ul style="list-style-type: none"> 時期を決めて情報更新の呼びかけと、更新方法の検討を行う。（荻川地区は定着している） 配布世帯の把握の取り組みを検討。

意見	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の課題がある中で、もしもの時の緊急情報キットは大事な役割をもっている。 緊急情報キットの管理のしかたを正しく周知する必要がある。 高齢者自身が緊急情報キットについて知ってもらうために、長寿会やサロンで趣旨や使い方説明をしている。また、町内会では個人情報取り扱い規定を作成した。キットを活用した見守りを広げていくためには町内会の力が必要である。(美幸町) 情報用紙の緊急連絡先に本人の情報を記入している人もいる。(身内がいない) 緊急情報キットを配布した後、情報用紙の記入と冷蔵庫への保管の確認をしていない。 本町2丁目2区では75歳以上の約3分の2の世帯に配布しており、その半数以上の世帯が冷蔵庫に保管することに抵抗があり、玄関に置いている世帯もある。冷蔵庫の他にも置くようにすると良い。(冷蔵庫内の食材と一緒に保管したくない、冷蔵庫を開けて欲しくないという人もいる) 緊急情報キットを持っている高齢者からの、感想などの声を聞けると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 田家2丁目で1～2月の間に救急搬送が10回程入っており、キットを活用したかどうかわからなかったが、日頃から何かあったら町内会長へと住民に伝えている。 緊急連絡先を町内会長にしていたが連絡が来なかった。関係機関と連携できると良い。 救急搬送時に緊急情報キットが役に立った実績の確認がとれると良い。また、その事例を聞けると良い。 見守り訪問をした際に、本人が入院したことが周囲もわからず、心配して探したケースがあった。地域包括支援センター新津等との連携のしくみがあると良い。 自分のことを人に話さなくなっている傾向があるため、情報用紙の記入は大事である。また、キットを通じた見守りが大切である。 町内の高齢化が進んでいることから「隣組」を復活し、何かあった時に助け合えるよう、近所のつきあいを意識していくことがこれから大事になってくる。 災害時に緊急情報キットを避難所に持って行くと便利ではないかという町内会長の意見もあった。
----	---	---

取り組み2：見守りに関する認知症の対応について

<p>推進員</p>	<p>地域での見守り活動に関わる中で感じたこと</p> <p>地域の見守りの必要性を身に染みて感じています。見守り活動を行っている地域の方々や、自治会・町内会より、悩みや地域の心配ごとを知る機会がありましたが、認知症の問題は深刻になっています。「見守り活動の中で困りごとに対してどこまで関わるべきか」「認知症のご本人を人と会わせたくない家族の気持ち」「亡くした夫を探しに行くと言い、薄着で歩いていた方を保護した」など、地域での認知症の方への対応の難しさを感じたところです。</p> <p>地域だけで認知症の方を支えていくことは困難です。身近な地域で暮らす住民同士で気かけ合い見守りつながることで、その人の変化に気づくことが大切であり、地域と関係機関（社協、包括、区役所ほか）が連携しながら、対応していくことが必要だと感じました。</p> <p>※認知症に対する正しい理解を深め、温かい支え合いの心を広げていけるよう、皆様のご協力が必要です。私も皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。</p>
<p>意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩をして自宅がわからなくなったという人など、まわりに気になる人がいたら町内会長に伝えて欲しいと周知している。 ・「認知症」の定義がわからない。本人への問いかけ方がわかれば考えられることがあるのではないか。 ・地域包括支援センター新津（以下「包括新津」と明記）への認知症に関する相談件数が増えている。 ・包括新津としても本人が支援を求めていると関わりが難しいが、つながりを拒否している方についての相談も一緒に考えていきたい。 ・75歳以上の自動車免許の更新で認知機能テストを行っているが、場合によっては自動車学校と連携した状況把握ができるしくみがあると良い。 ・認知症サポーター養成講座の普及で、正しい理解を広げていくと良いのではないか。

(2) 令和6年度の取り組み

<p>取り組み1</p>	<p>緊急情報キットの活用方法について（継続）</p>
<p>取り組み2</p>	<p>見守りに関する認知症の対応について（継続）</p>

<p>取り組み3</p>	<p>（令和6年度 第1回の会議までの期間、構成員と個別に地域の課題を聞きながら、取り組むテーマを集約したい。）</p>
--------------	--

<p>〈圏域で検討していくと良いと思う地域の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困った時にどこに相談したら良いかがわかるよう、情報が一元化されると良い。地域の情報窓口について検討できると良い。
